

人生のスタートにこそ良質な幼児教育を  
子どもたちの「いま」と「未来」の幸せのために...



コ  
ド  
モ  
ノ  
チ  
カ  
ラ

発行者

一般社団法人 札幌市私立幼稚園連合会  
063-0051 札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10  
札幌市生涯学習総合センター(ちえりあ)内  
T.011-671-3590 F.011-671-3591  
[www.s-youchien.or.jp](http://www.s-youchien.or.jp)

©2024 Private Kindergarten Federation Sapporo  
本書を無断で複製・転載することを禁じます

一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会

## はじめに

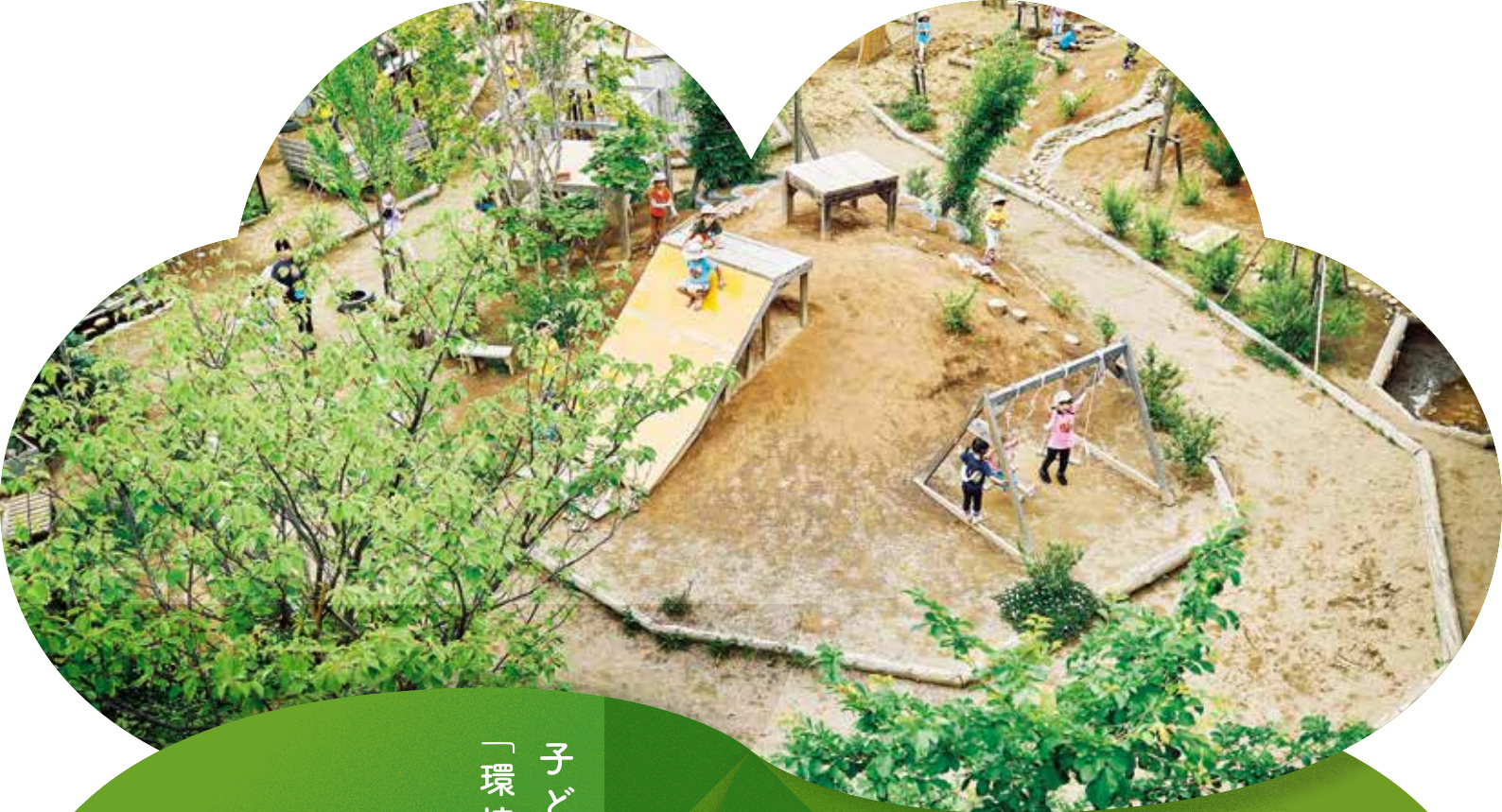
皆さんは“幼児期の記憶”が、一体どれくらい残っているのでしょうか？  
「自分の好きな遊びに没頭」していた日々で得られたものは何でしょうか？  
「幼児期の人との出会い」が、人と人が織りなす  
幸福な人間社会の実現の礎となっていることを実感できて  
いるでしょうか？

「やってみたい＝遊びたい」といった欲求を  
満たすことを通して、言葉の獲得、身体  
の発達、社会性の発達など、気が  
つけば沢山の知識や技能  
が身につくと同時に、  
それらを活かすため  
の非認知能力も  
育まれます。



親と似ているようでどこか違う温もりのある先生の存在が、心を  
安定させ、前向きな気持ちを生み出してくれます。また、気の合う  
友達とふれあう中で互いに刺激を与え合い、新しい価値観に  
出会うことを通して、人と関わり合うよろこびやおもしろさを感じる  
ようにもなります。

このような幼児期の「豊かな遊び」と「人との出会い」は、社会に  
おいて幸福な生き方を実現するための経験値を保障する  
営みであり、この営みこそが「幼児教育」です。  
複雑な社会が加速していく“今”こそ、  
各園が使命感を抱きながら幼児教育の  
責任を果たし、重要性を社会に発信  
することを目指していきます。



## 子どもを育む 「環境」の力



子どもが自発的に遊びを展開するためには、子どもを取り巻く環境が重要です。環境といっても、園舎や園庭、遊具、保育室の玩具などの物理的な物だけではありません。保育者や友達など「人」も重要な環境です。また、行事や地域社会の環境も子どもたちの遊びを広げる重要な要素となります。子どもたちが豊かな遊びの経験を積み重ねるために、それぞれの園では子どもの発達やその時々興味関心を読み取り、ふさわしい環境を提供しています。そしてこのような遊びの中で、熱中して取り組む、試行錯誤する、友達の気持ちに共感するなどのさまざまな経験をすることが、子どもたちの成長を促すことにつながっていくのです。

3

歳児

何でも自分でやってみたい。  
友達と遊ぶのが楽しい。

自我が形成され、自己主張が強くなる時期です。世界が広がり、たくさんの刺激を受ける中で、自分の好きな遊びを見つけ夢中になって遊びます。何でも自分でやってみたい気持ちが強くなる一方、うまくいかないことも。そんなとき、自分を受け入れ認めてくれる先生の存在は大きいもの。先生が大好きになり、安心して生活できるようになります。さらに、他者の存在に気づいてまねをしてみたり、けんかもしてみたり。友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じていくとともに、他者と関わりながら生活の基礎を育み、自信が持てるようになっていきます。



園での  
対応

子どもと信頼関係を築く。  
集団での関わりを大切にす。

発達段階をふまえ、一人ひとりの子どもに寄り添い、いち早く信頼関係を築きます。自己発揮できる環境をつくるとともに、集団だからこそ経験できる他者との関わりを大切にしていきます。



# 4

歳児

遊びのルールを学びはじめる。  
友達との関わりの中で心の揺れが強くなる。

ルールのある遊びが好きになり、「協力すること」「順番を守ること」を学びはじめます。周囲の人や物に興味をもって関わりますが、「失敗するのがイヤ。負けるのがイヤ。できない自分がイヤ」ということも。うまくいったりいかなかったり、遊びを通して世界が広がる時期です。また、人と関わる中で「自分の思いを伝えたい」「自分の思いを理解してほしい」と心の揺れが強くなっていきます。日々の遊びの中で、友達との違いに気づき、相手の気持ちを理解して共感できるようになると、「気の合う仲間と一緒に楽しい」と思うように。集団で過ごす心地よさを感じる時期でもあります。



園での  
対応

ルールを視覚で伝える。  
感情の表現をサポート。

遊びのルールをわかりやすく説明します。図や絵を用いて視覚的に伝えることで、子どもたちが遊びを理解し、楽しみが広がるよう工夫。子どもたちが自然と協力する機会を設けたり、順番を守ることで生まれる楽しさを味わったりできるよう、保育の環境を整えていきます。また、子どもたちの自己主張に共感を示し、感情を言葉で表現できるようサポート。子ども自身が感情を理解し、自分の言葉で表すことを手助けしていきます。

5

歳児

## 知的好奇心や探求心が芽生える。 仲間と暮らしをつくる。

「遊び」「暮らし」を通して知的好奇心が芽生え、文字や数にも興味がわいてくる時期。探究心が芽生え、知ることのおもしろさを感じます。遊びの中で興味を持ったことや不思議に感じたことを考えたり調べたり、試行錯誤しながら遊びをおもしろくしていきます。また、人との関わりに価値を見出し、仲間を互いに認め合う関係性を育むことができるように。よりよい人間関係の築き方を学び、集団生活に必要な力が育まれていきます。

園のリーダーとして年下から慕われる存在になり、「集団の中の自分」としての責任感が芽生えて自信がついてくるように。遊びや暮らしを園の仲間とともに作っていくことが小学校以降に必要な「学びへ向かう力」につながっていきます。



園での  
対応

### 子どもたちの考えを尊重し、 友達同士の話し合いをサポート。

手や口を出しすぎずに一步下がって見守り、子ども同士で意見を伝え合う場を設けます。時に子どもたちと一緒に考えたり、時に考えを引き出して認めたり、自信がつくようサポートしていきます。



# 未来に向かって

できることは  
自分でしようと  
積極的に  
取り組む

自分なりに  
考えたことを  
発信する

仲間と  
協同する楽しさを  
味わう

好奇心や  
探求心を持って  
試行錯誤する

このような幼児期の経験が、学力検査などでは測れない「やる気」「忍耐力」「協調性」といった非認知能力を育みます。自分を信じ、うまくいなくてもすぐ諦めずに「もっとこうしてみよう」と考える。そうした「生きる力の基礎」につながります。

AIなどの革新的な技術と人の暮らしが融合するSociety5.0社会の中で、自分らしく自信を持って生きていくために、安心できる環境の中で行われる「質の高い幼児教育」は大切であると考えます。

安心できる環境

生きる力の基礎

やる気、忍耐力、協調性など

質の高い  
幼児教育

乳幼児期の発達の専門家からのメッセージ

## 「いま」を生きる 子どもへのまなざし



川田 学 先生  
北海道大学大学院  
教育学研究院・准教授

子どもたちにとって遊びが生活の中心であることを、いまほど重要なこととして考えなければならない時代はないでしょう。私たちの暮らしは便利になりましたが、自分の身体を使い、感覚を研ぎ澄ませて生きる実感は薄れています。速いこと、正確なこと、効率的なことばかりに価値があるように思われがちです。その反面、これは本当に必要なことなのかと、首を傾げたいような物事に追われながら、立ち止まるゆとりもなく、余裕のない日々を過ごしている大人たちも多い現代社会です。幼い人たちは、そんな大人たちにふと正気を取り戻させてくれるパートナーです。

飽きもせず同じことを繰り返す姿、まだやりたいと全身全霊で泣く姿、大人には意味の分からない遊びを楽しむ感性。「いま」を充実させようとする天才が子どもです。幼稚園や認定こども園は、子どもの「いま」に徹底的につき合おうとする環境があり、保育者がいます。そこは、子どもたちが自分の土台をつくる大切な場所であるのはもちろん、子どもの姿を通して、大人たちが幼き日の自分をふり返り、「いま」の生活を見つめ直す場でもあります。このリーフレットが、幼稚園や認定こども園の「いま」と「あす」を語り合う機会になることを願っています。